

a 学校教育目標	夢と高い志を抱き、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像)社会に開かれた教育課程の実現 (生徒が学びたいと思う学校、保護者が通わせたいと思う学校、教職員が働きたい、学びたいと思う学校)
----------	----------------------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント	
					達成値	達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力の育成	「学びの変革」の展開 (1)言語活動の充実 (2)学び合いの深化	学習の文脈の拡大と言語活動カリキュラムの開発	①モジュール学習での教科指導と家庭学習の一体化 ②言語活動カリキュラムによる論理力の向上	・5教科前期(全国・NRT) ・5教科後期(実力テ)	107%	93.9%	94.6%	85.6%	B	・1月に実施した実力テストにおいて目標値107%を上回ることができなかった。特に、1年生英語、2年生理科、3年生数学において大きく下回る結果となった。前期では、課題のみ残った問題・領域について類似問題への取り組みを直し等を行ったこともあり、9月には、各学年で学力の向上が見られた。1月の実力テストにおいても、5教科全体では目標値に届かなかったが、1年生社会は前回と比較して9ポイント、2年生数学7ポイント、3年生国語2ポイント伸びている。このことから、テスト前後の補充学習や毎日のモジュール学習と連動した家庭学習の積み重ねは一定の成果となってきているといえる。学年最後の実力テストで明らかとなった。理解が不十分であった各教科の単元や領域等の課題に対して、次年度に向けさらに継続して取り組んでいく。	・学力調査結果をもとに、今後も5教科担当者会を継続的に、課題分析と改善策について協議していく。課題の見られた問題・領域について反復学習に取り組み、定期テストで類似問題を出題して検証と改善を図っていく。また40%未満の生徒にはモジュール学習時間を活用して、個別に対応していく。全体では、テスト前補習、テスト後解き直し学習を継続して進めていき、学力の定着を図っていく。家庭学習においては宿題だけで終わらず、自主的な学びへとつながるようにセミナー学習ノートを活用して、教科ごとに学習方法を具体的に示していく。	○			・とても丁寧な取組により、着実に成果を出されていること、敬意を表します。 ・学び合いによって一人も取り残されることなく、また、コツコツとした努力も培ってほしい。 ・適切な分析がなされていると思います。 ・セミナーテスト(社会)1、2年生の平均点が格段にあがっている。何かしらの要因があると思うが、要因がわかれば今後にも生かしてほしい。
			①思考力・判断力・表現力を育成する授業改善の推進	・学び合いアンケートの肯定評価率	100%	89.5%	91.2%	90.4%	A	・学び合いアンケートでは、「学び合い」の授業は「わかりやすい」は91%、「学び合い」の学習が「わかった」と感じる」は92%、「クラスみんながわかることは大切だ」と感じる」は94%、「わからないときは「わからない」と伝えられる」は80%肯定的評価は高い。意識としては高い数値ではあるが、授業改善の観点から、学力検査の思考力・判断力・表現力の領域における得点推移を見ると、学年や教科によってばらつきがある。	・「学び合い」のアンケートでは、肯定的評価は91%であったが、学力の向上につながっていないことが課題である。「学び合い」が「教え合い」ではなく、思考力・判断力・表現力の育成を図る手立てとなるための研修と授業改善を研究主任を中心に推進していく。	○			
豊かな心の育成	「積極的な生徒指導」の推進 (1)関係性の調和 (2)レジリエンスの向上	特別支援・教育相談の充実	①QUを活用した学級集団の相互の関係性の向上	・生徒意識調査(QU)の肯定評価	80%	69%	62.0%	77.0%	C	・学年ごとの学級生活満足度を4月当初と12月を比較して見ると、1年生は90%から80%で、やや減少している。2年生は22%から44%へ、3年生は63%から65%へと増加している。ただし、全学年とも全国平均41%を超えており、特に1年生では顕著である。	・行事に向けて行う取組や、係活動・委員会活動を通しての取組により、自覚や責任感および相互の関わり方を学ぶことで学級集団の満足度を高める。また「学び合い」を取り入れた学習活動や進路実現のための取組を継続していくことによりコミュニケーション能力を高め、相互の関係性の向上を目指す。	○			・様々なしんどさを抱えている生徒にしっかりと寄り添った組織的な取組がなされていると思います。 ・続けて子どもたちが楽しく学校に行けることを望む。 ・子どもの表情や行動を見ながら、よりよい関係作りができています。 ・3年生のアンケート「学校へ行くのは楽しい」「人の役に立つ人間になりたい」2項目の「よくあてはまる」の93%、87%は素晴らしい！！
			①特別な支援等を必要とする生徒の関係機関連携の充実	・関係機関連携対前年度比100	100%	86%	86.0%	86.0%	B	・特別な支援を必要とする生徒について、学校や家庭だけでなく、専門的な関係機関と連携して取組を進めることができた。専門的な関係機関には相談がなくても、地域での活動には参加することができるなど、支援の関係性を構築することができている。	・特別な支援が必要な生徒とその保護者の状況を学年部、ふれあい教室、SC、教育相談委員会、特別支援教育推進委員会等の中で、タイムリーに連携し、合理的配慮の工夫や組織的な対応を継続する。	○			
信頼される学校	「開かれた学校づくり」 (1)保護者・地域連携	公開性の向上(タブレット活用)	①オープンスクール実施	・年間1回	100%	0	1回	100%	A	・今年度、学習発表会時にオープンスクールを実施する計画を立てていたが、コロナウイルス感染症拡大に伴い、実施することができなかった。しかし、2月の入学説明会とオープンスクールを兼ねて、授業見学、部活動見学を行い、実施することができた。	・今年度は入学説明会でオープンスクールを実施することができた。来年度は学習発表会、入学説明会とオープンスクールを計画していきたい。 ・道徳授業を中心に合同研修会を実施してきたが、来年度は教科や教育相談等での合同研修会を小学校と連携しながら計画していきたい。 ・小学校との行事のすり合わせを計画的に行っていくたい。	○			・開かれた素晴らしい学校づくりがなされていると思います。 ・この活動を通して、小中がますます連携してほしい。 ・You Tube配信等、工夫のある対応をされているとお聞きし、いろいろと柔軟に活動されていてよいと思います。 ・コロナに負けずオープンスクール等行事ができたらいいですね。
			①道徳研究授業等の合同研修会の実施による計画的な交流。	・合同研修会・合同授業研究を3回以上実施	100%	4回	7回	233%	A	・6月に1回、9月に2回、10月に2回、1月に1回、2月に1回と年間計7回とお互いの授業を交流することができた。		○			

【:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。